

版画の軌跡

版画の景色/形式

目に映る「風景」が、網膜に映る「色彩」と化している。その色彩は形象をともなうが、**移りゆく時の中では、すべてがうつろい、流れてゆく。**その流れに抗い、目に見える世界を記憶にとどめようとするとき、「風景」と色彩が「圧縮」され、「景色」が生まれる。世界から放たれる光線が、網膜に「版」を描き出す。その「版」が脳内に「転写」され、「景色」が出現する。



「プレス(刷)」によって成立する「版画」を「景色」として眺めてみる。「紙とインク」から放たれる光線が、網膜に「版」を描き出す。その「版」が脳内に「転写」され、「版画の景色」が出現する。「版画の景色」を眺めるうちに、「版画の形式」と向かう知覚と意識が研ぎ澄まされる。「紙にインクがのっている」、それだけで圧倒的な充足感をもたらされる。「明瞭な形態と明快な色彩」は、形式に由来する即物的な魅力を湛えている。「形態に抗う色



彩としてのグラブーション」は、形式からの逸脱を予感させる魔力を秘めている。



現代版画センターは一九七四年に設立された。その〇年に及ぶ活動の「軌跡」を辿ると、**三つの軸が浮かび上がる。**ひとつ目は、当事者が語るとおり、



現代版画センターの軌跡

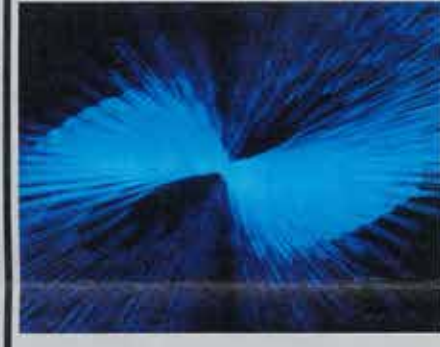
The Trajectory of the Gendai Hanga Center



「メーカー」、すなわち版画を制作する版元としての活動である。約八〇作家七〇〇点以上のエディションが制作されている。画家、版画家にとどまらず彫刻家、工芸家、映像作家、建築家まで、様々なジャンルの作り手が関わっている。ふたつ目は、「オーガナイザー」、すなわち、オークション、展覧会、シンポジウム、上級会など様々な出来事を組織する活動である。東京のみならず、地方の拠点をベースに、様々なプログラムが次々と開催された。会員組織の運営も重要である。三つ目は、「パブリッシャー」、すなわち刊行物を編集・発行する活動である。名称や判型を変えながら一〇五号まで刊行された同センターのニュースを讀くと、濃密な言説空間が出現する。さらに、関係作家の作品集やカタログも多数刊行されている。



この三つの軸は、相乗効果をあげるように運動する出来事として遂行されている。本展ではこの三つの軸を手掛かりに、現代版画センターを「時代の熱気を帯びた多面的な運動体」ととらえてみたい。そして、その運動体が帯びていた熱気を体感できる展示空間の出現とその運動体が時代に残した爪痕としての作品・出来事、出版物を俯瞰的にとらえる印刷物カタログの出版を目指している。それによって、その運動体が〇



年にならぬ活動を継続出来たという事実がひとつの「奇跡」のように感じられるだろう。**しかし、「奇跡」は長くは続かない。**一九八五年二月、株式会社現代版画センターは、



「倒産」する。社会的に見れば、ひとつの事件であり、その意味は重たい。法的な事後処理が完了してもなお、倫理的な後や情緒的な響りが響り続けることは避けられない。いま、現代版画センターの展覧会を企てるには、この多面的な運動体を、俯瞰的にとらえる視座が必要である。そのためには、その活動の功績を検証すると同時に、その活動に対して懐疑的な、批判的な否定的な見解を持つ人々の言葉にも、耳を傾けなければならない。



出品作家

- 饗嘯 Ay-O
- 安藤忠雄 Tadao ANDO
- 飯田善國 Yoshikuni IIDA
- 磯崎新 Arata ISOZAKI
- 一原有徳 Arimori ICHIHARA
- アンディ・ウォーホル Andy WARHOL
- 内間安理 Ansei UCHIMA
- 瑛九 O-E
- 大沢昌助 Shinzoku OSAWA
- 岡本信治郎 Shinjiro OKAMOTO
- 小田 襄 Jo ODA
- 小野具定 Gotoji ONO
- オノサト・トシユブ Toshinobu ONOSATO
- 柏原えつとむ Etsutomu KASHIHARA
- 加藤清之 Kiyoyuki KATO
- 加山又造 Mitsuzo KAYAMA
- 北川民次 Tamiji KITAGAWA
- 木村光佑 Koujuki KIMURA
- 木村 茂 Shigeru KIMURA
- 木村利三郎 Ritsuro KIMURA

軌跡

- 1974年2月 全国版画コレクターの会(仮称)準備会結成
- 1974年3月15日 機関誌「画譜 創刊準備号」刊行
- 1974年3月31日 全国版画コレクターの会(仮称)準備会、第1回東京オークション開催
- 1974年5月 正式名称を「現代版画センター」とする
- 1974年5月30日 現代版画センター機関誌「画譜」創刊(4号まで刊行)
- 1974年6月 エディションNo.1として 饗嘯(I Love You)シルクスクリーン(限定11,111部)を制作・発表、頒価1,000円
- 1974年6月 全国縦断企画「版画への招待展」を愛媛県松山と岩手県盛岡からスタート
- 1975年2月20日 機関誌「版画センターニュース」創刊(105号まで刊行)
- 1975年11月 エディション作品による「島州一・関根伸夫 クロスカントリー7,500km展」を函館から宮崎までほぼ同時に全国各地で開催
- 1976年9月 初めて会員からエディション制作資金を募り(予約金)菅井汲の新作版画21点を制作、「菅井汲全国展」を開催
- 1977-78年 会員制による共同版元の理念を具体化した企画「現代と声」全国巡回
- 1978年7月21日 現代版画センター、北川フラム編「'77現代と声—版画の現在」刊行
- 1979年5月26日 「戦後版画の創世期1945-1956」刊行、同展を愛知県豊田・美術館松樺堂、東京・ミキモト、大阪・梅田近代美術館、長野県坂城・森工房他で開催
- 1981年3月1日 現代版画センター直営のギャラリー方を渋谷にオープン(オープニング展示「瑛九 その夢の方へ」)
- 1982年3月1日 ギャラリー方機関誌「Monthly Hohsun」創刊
- 1982年4月9日-18日 ギャラリー方、第3回美学校シルクスクリーン工房プリントシンポジウム展開催
- 1983年6月7日 「アンディ・ウォーホル展 1983-1984 オリジナル入りカタログ」刊行
- 1983-84年 エディションNo.601-603 アンディ・ウォーホル「KIKU 1」「KIKU 2」「KIKU 3」シルクスクリーン(限定各300部)を制作 版画代表作による「アンディ・ウォーホル全国展」を東京・パルコ、宇都宮・大谷石地下空間、秋田県大曲他で開催
- 1983年11月-1984年 新作エディションによる「磯崎新全国展」を東京・GAギャラリー、奈良・西田画廊、福井県勝山他で開催
- 1984年4月1日 「版画センターニュース」を「版画コミュニケーション誌ed」へリニューアル(101号-105号)
- 1985年2月 現代版画センター、倒産

1 島州一(カトラ)1974年「シルクスクリーン」布「現代版画センターエディション42番」©島州一
 2 関根伸夫(おちるリング)1975年「シルクスクリーン」紙「現代版画センターエディション78番」
 3 堀内正和(飲みあう二つの形)1977年「シルクスクリーン」紙「現代版画センターエディション180番」
 4 磯崎新(空間としての美術館1)1977

現代版画センターの軌跡/奇跡
 年「シルクスクリーン」ドローイング、カンヴァス、パネル、木「現代版画センターエディション185番」群馬県立近代美術館寄託(特別出品) ©Arita hooki
 5 元永定正(白い光が出ているみたい)1977年「シルクスクリーン」紙「現代版
 画センターエディション198番」(現代と声より)
 6 大沢昌助(くら)1980年「リトグラフ」紙「現代版画センターエディション320番」
 7 山口勝弘(Kinetic Fountain)1981年「シルクスクリーン」紙「現代版画センターエディション395番」
 8 宮脇愛子(Golden Egg A)《Golden Egg B》1982年「ブロンズ」現代版画センターエディション508番・509番
 9 草間彌生(南瓜)1982年「シルクスクリーン」紙「現代版画センターエディション523番」所蔵:たけだ美術(特別出品) 所蔵:1-1-B1
 ときの忘れもの/有限会社ワタスキ

センターの軌跡
 現代版画の
 景色の
 版画の